

皮膚科

2024年度特に印象に残った疾患は糖尿病性足病変でした。

以前から下肢に胼胝や潰瘍を繰り返し、注意深い経過観察が必要とされる患者さんが、同部位に感染を起こして入院治療を必要とされる場合があります。抗菌剤の全身投与による治療以外に、(内分泌科依頼して) 血糖コントロールし、(循環器科や心臓血管外科で) 血行再建を行って、(形成外科中心に) なんとか足の救済を試みるも、結局膝下や膝上(大腿部)の切断という残念な結果になってしまった症例が例年以上多く見られました。現在糖尿病で内分泌科に通院している患者さんはフットケア外来を受診し、足の健康チェックがあります。そこで異常があると皮膚科に紹介されます。

皮膚科では足の病変(足白癬・潰瘍・褥瘡・陥入爪・鶏眼や胼胝・疣贅など)を確認し、治療にあたりますが、糖尿病の患者さんは血糖コントロール不良・血流不全・神経障害をもっており、一筋縄では治癒に至りません。かつ視力障害もあるため、キズがあっても気がつきにくく、気づいた時には既に手遅れ。骨髄炎を起こしており切断という残念な結果になります。

2024年度はこうした疾患の患者さんがとても多かったです。足病変は皮膚科だけでなく、形成外科・循環器科・心臓血管外科・リハビリ科などチームで治療に当たります。患者さんのQOLを考えて、なるべく足を残して日常生活にもどるよう日々努力を重ねています。そんな中で皮膚科がなうところは早期発見だと思います。足切断という悲しい結果にならないよう、日々口を酸っぱくして、「自分の足をよく見て。家族にもみてもらって。異常があれば、靴下が汚れていたら、すぐに皮膚科にかかるように。体重を減らし血糖コントロールを良好にするように。」指導しています。患者さんは総じて、実際に困らないと自分とは関係ないと思う方が多いので、もっと真剣に取り組んでいただけるよう啓蒙活動が必要と考えました。

2024年年末から再びCOVIDやインフルエンザ感染症が流行りました。発熱や体動困難からそのまま褥瘡を作ってしまう患者さんが多く、救急車で来院された患者さんのほとんどの方に持ち込みの褥瘡が見られていました。しかも片側に多発してみられている患者さんばかりでした。具合が悪かったら寝かしておく、のではなく、全身脱がして確認し、皮膚に異常が無いか全身チェックしてもらうという啓蒙が必要であると考えられました。

もう一つ2025年に入ってから皮膚科では聖隷事業団の先駆けとしてオンライン診療を始めました。

きっかけは皮膚科常勤医のいない横浜エデンの園の入居者さんが、皮膚トラブルについての相談窓口が身近になくて困っていらっしやるということでした。

聖隷横浜病院にも皮膚科医はいますが非常勤であることから、オンラインを使用して当院皮膚科で相談できないかということでした。白濱医師がオンライン診療担当医師としてスタートしました。現在毎月第2水曜日にオンライン診療を行っています。診療開始の前にはあらかじめ臨床写真を送ってもらい問診などを行うことが必要です。また予約以外で診察希望の場合の対応など、まだ検討の余地がある部分はありますが、患者さんの反応は概ね良好です。皮膚疾患はオンラインでの診療は難しいとされていますが、症例を絞っておこなうのであれば、きっと良い方向に向かっていくものと思われます。

(部長 大場 操)

・医師数 名 ・専攻医 名
・初期研修医 0名

(2025年4月現在)

【入院患者】 (単位：人)

	2020	2021	2022	2023	2024
新 入 院	50	40	51	91	72
退 院	58	46	60	88	73
延べ人数	1,302	1,209	1,085	1,678	1,407
一日平均	3.6	3.3	3.0	4.6	3.9

【外来患者】 (単位：人)

	2020	2021	2022	2023	2024
新 来	684	682	604	574	600
再 来	11,504	11,410	11,162	10,796	11,133
延べ人数	12,188	12,092	11,766	11,370	11,733
一日平均	41.6	41.3	40.2	38.8	40

【平均在院日数】 (単位：日)

年 度	2020	2021	2022	2023	2024
日 数	36.9	23.0	27.0	17.3	21.0